（専門試験　林業　NO.1）

我が国の森林の現状に関する次の記述のうち妥当なものを選び，記号（数字）で答えよ。

1. 人工林面積はここ30年間で30％増加しており，森林面積のうち人工林の占める割合は約30％である。
2. 人工林の蓄積は毎年およそ780万㎥ずつ増加しており，現在２億6,500万㎥であり，森林資源の充実がうかがわれる。
3. 人工林の樹種別の面積比率は，北海道南部から沖縄県まで植栽されているスギが43％と最も多い。
4. 人工林のうち50年生以上の林分が占める割合は約３割である。
5. 戦後，拡大造林が急速に進められ，人工林面積の約６割をスギ，ヒノキ，マツ類などの針葉樹が占めている。

正答番号　　３

（専門試験　林業　NO.2）

次の文章は，ある高性能林業機械の特徴を記述している。該当する高性能林業機械名を答えよ。

2017年度における高性能林業機械の保有台数の内訳では，［　　］が一番多く保有されており，全体の３割弱を占めている。

［　　］は，林内で造材された短幹材を油圧式グラップルクレーンで荷台に積み込み集材する林内作業車である。ウインチも装備し，グラップルのアームが届かない場合にはウインチで木寄せする。足回りは全輪駆動のホイール式，セミクローラ式，クローラ式などがあり，より不整地の走行に適するよう足回りに工夫が施されている。

正答　　フォワーダ

（専門試験　林業　NO.3）

次の記述の［　　］に入る言葉として妥当なものを選び，記号（数字）で答えよ。

木材の含水率測定法として,薬品処理による方法や電気的計器による方法などがあるが,正確さの点から一般的に用いられているのが木材中の水分量と木材質量との関係から求める方法であり，その中でも多く用いられているのは「［　　］含水率」というものである。

1. 平衡
2. 全乾基準
3. 気乾基準
4. 湿量基準
5. 標準

正答番号　　２